

本当は怖い、言葉の力

これは「正論」なのでしょうか？

JRK活動、増収活動、各種社内試験…、本来自分にその気はなくても、いつの間にか巻き込まれてしまっている方は多いのではないのでしょうか？

とある若手社員の話では、某自主活動を断った際、上司から、仕事以外でも、向上心を発揮しようと思わないのか？「みんな職場を盛り上げないといけないのに、組織の一員としてわがままだ」等、もつともらしい理屈を並べられ、半強制的に活動させられたそうです。…確かに、反論は難しいようにも思えます。しかし、ここには大きな問題があります。

向上心「職場を盛り上げる」、このように社会で「善」とされている耳ざわりのいい言葉を、上司が自分にとって都合のいいように解釈し、用いてしまった場合、その上司と考えや価値観が違う人間はすべて、向上心「がなく、わがまま」であるということになりませんか？

結局、それで犠牲になるのは私たちのお金と時間です。協調性「やる気」プロ意識「等、社会的に好まれそうな言葉は、他にもたくさんあります。これらが会社や上司にとって都合のいいように使われていることはありませんか？

私たちは労働者です。自分や家族の生活に必要な賃金を得るために働いているということを忘れてはいけません。

言葉あそびに踊らされないために

物事には表と裏があります。例えば、包丁にしても、料理を作るための道具にもなれば、殺人のための凶器にもなるわけです。これと同じで、ひとつの言葉でも、それをを用いる人や場面によって、相手を励ましたり元気づけたりすることもできますが、逆に、自分と考えが違う人間を追い込むこともできてしまいます。

例えば、会社でもよく使われる「プロ意識」、この言葉に対して、どこか違和感を覚えたことはありませんか？
そもそも、プロとは何なのか、本来どのような場面で使われるべきなのか、自分なりに考えてみましょう。

会社（使用者）と労働者では、持つべき考えが違うということを、繰り返し述べてきました。



私たちが提供しているのは思想ではなく、労働力です。



若い力

第 81 号
2017年 10月15日
発責 国労九州本部

博多区博多駅東3丁目9番3号
ニッコーハイツ1003号
JR 092-2075
NTT092-483-1515